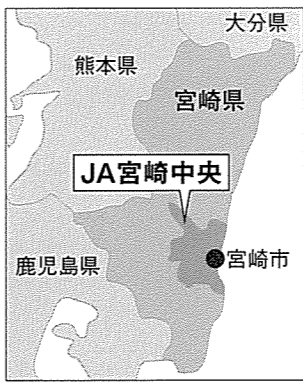




組合長
石田正昭

【第5回ゲスト】
藤原榮伸氏
宮崎県 JA宮崎中央代表理事組合長
「インタビューとまとめ」
龍谷大学農学部教授

JA宮崎中央の基本理念は「まごころ日本一のJA」。制定後一五年を経過し、普遍の理念として位置づけられている。組合員農家、地域住民へ接する基本姿勢を表している。園芸、畜産、水稲を基本とする農業振興と地域振興は、バランスのとれた模範的な農協の姿だ。



勇気・創造・ロマン あふれるJAづくり

家族農業を持続するための知恵

石田 組合長はコチョウランの生産者だとお聞きしました。
親が急逝しました。農業高校を出たばかりで、実際の農業は素人も同然。途方に暮れていたときに営農技術や行政の補助制度の活用方法、経営の仕方を教えてくれたのが、

農協の営農指導員でした。当時はミニトマト中心でしたが、わたしのところは耕作面積がちやうと狭く、同じ規模のハウスでも所得が高く、雇用も通年雇用のできる品目の導入をめざしていました。

スイートピーなども試しましたが、三〇歳代後半になって、野菜の営農指導員からコチョウランではどうかというお話をいただきました。もともとは埼玉の花市場からのお話です。
石田 そろそろバブルが始まる頃。需要が伸びて、花市場も新しい産地を探していた時代ですね。
藤原 ミニトマトを作りながらコチョウランも試すというやり方で始めました。合併前の宮崎市農協の時代です。最初は八人、後から五人が加わって、昭和六十三年に正式に部会が発足しました。

和四十二年に農業高校を卒業して就農しましたが、その三年後に父
親が急逝しました。農業高校を出たばかりで、実際の農業は素人も同然。途方に暮れていたときに営農技術や行政の補助制度の活用方法、経営の仕方を教えてくれたのが、

農協の営農指導員でした。当時はミニトマト中心でしたが、わたしのところは耕作面積がちやうと狭く、同じ規模のハウスでも所得が高く、雇用も通年雇用のできる品目の導入をめざしていました。

その後、部員は増えませんでした。それが、それぞれが規模拡大し、三年後にはコチョウラン専業となりました。その間にいろんな産地を見て、品質がバラつく山上げはやめ、クーラーを導入しました。
石田 コチョウランは寄せ植えです。二本とか三本とかの。
藤原 一鉢で八千円とか、一万円といった市場価格でした。九州で

は福岡県の朝倉が産地でした。朝倉は、ハウスミカンからコチョウランに移っていました。そこにも何回か通いました。今では想像もできないほどよい時代だったと思います。
宮崎市農協では、ほぼ同時期に北はコチョウラン、南はマンゴーの産地化が図られました。マンゴーは沖縄から技術を導入し、ハウスミカンから転換しました。これを誘導したのも果樹の営農指導員です。一個一万円もするようなマンゴーもありますが、作りのうまい人と下手な人の差が大きく出ています。野菜のみならず、花や

者を見ていて面白いなと思うのは、家族農業のやり方が変わりつつあることです。親子が喧嘩をせずに営農するには、カマドも別、ハウスも別にしたほうがうまくいく。ほとんど同じ作物を作っているハウスを分け、半分を親が、残り半分を息子がやるという方式です。仕事上は、一緒にやったほうが

うまく回りますが、息子たちからすれば、栽培も財務もすべて自分が責任を持ってやりたい。そのほうが一人前になるのも早い。もちろん、必要なときは労働を融通し合っています。割合的には、親子一緒にの経営をやり、息子夫婦が給料をもらうほうが多いのですが、新しいやり方だと思っています。

家族農業を支援するための農協事業

石田 後継者たちはどんなルートで就農していますか？
藤原 通常は県の農業大学校や普通の大学を出て就農します。しかし、いったん都会で就職してから

地元に戻るというUターンも多いです。独身で帰ってきて、嫁さんをもろうという段になって家を建てています。結構いい家を建てて住むケースもありますが、母屋を息子たちに譲り、親たちが新しい家に住むケースもあります。
石田 経営移譲はその母屋を交換したときですか？
藤原 実質はそうだと思いますが、形式は六五歳で農業者年金が出るようになってからです。



シンボルキャラクター「はびす」
JA宮崎中央
(宮崎中央農業協同組合)
組織の概況(平成27年1月末日)
組合員数.....34,310人
(正組合員10,350人、准組合員23,960人)
役員数.....34人(うち常勤5人)
職員数.....1,205人(うち正職員658人)

地域と農業の概況
宮崎平野を取り巻く旧1市5町の6つのJAが合併して発足。冬でも温暖な気候に恵まれ、販売額の5割以上が野菜(キュウリ、ピーマン、トマトなど)を占め、マンゴーなどの果樹、花卉、畜産(全国和牛能力共進会連続日本一の宮崎牛)なども盛ん。プロ野球チームのキャンプ地を管内に抱え選手に農産物を食べてもらうなどのPR活動を展開している。

JAのデータ(平成27年1月末日)
設立 平成9年2月
本店所在地 〒880-0813 宮崎県宮崎市丸島町1-17
出資金.....60億円
販売品販売額.....238億円
購買品供給額.....151億円
貯金残高.....1,738億円
貸出残高.....541億円
長期共済保有高.....7,574億円

宮崎県にはSAP(和訳で「農業



繁栄のための学修」と呼ばれる4日活動があります。昭和三十七年のスタートで、五〇年以上の歴史があります。二五歳までそこにいて、次に農協青年部に入ります。青年部は四五歳で卒業ですが、現在の構成員数は四二二人。わたしが青年部長をしていた頃は、宮崎市農協だけで六〇〇人はいました。正組合員戸数は七五〇〇戸くらい、そのなかで農業を主業とするのは二五〇〇戸くらいです。ですから、四二二人の青年部員というのはうなずける数字です。

いまや、青年部の皆さんは集落に一人とか二人とかに減っています。近所には仲間がいないので、広く行動しないと仲間の交流ができません。そうすると、経営の成否は親の敷いたレールに乗るのではなく、将来に向けた取り組みをどれだけ実践できるかにかかっています。それができる人と思えます。い人との差は大きいと思います。農協としては、次世代の育成を

図るには二世代が生活できるような経営基盤を作らなければいけないと考えています。それには五〇アールのハウスが必要です。販売金額で二五〇〇万円、所得で一〇〇〇万円という水準です。組合長に就任したとき、わたしは職員たちに販売額三〇〇〇万円の農家を五〇〇戸作れと命じました。現状は二〇〇戸程度です。

石田 明快な目標ですね。ただし規模拡大だけではない、別の方法もあるのではないのでしょうか。
藤原 その通りです。農協としては、農家に大きな投資をさせないで販売金額を伸ばす方法を提案し、実践してもらっています。

その一つがJA出資型農業法人の(有)ジェイエイファームみやぎぎ中央による野菜苗の供給事業です。育苗労働から解放されることによって、農家はハウスの回転数も高められるし、栽培面積も増やせます。いまや主だった農家のほぼ一〇〇%が、農協から野菜

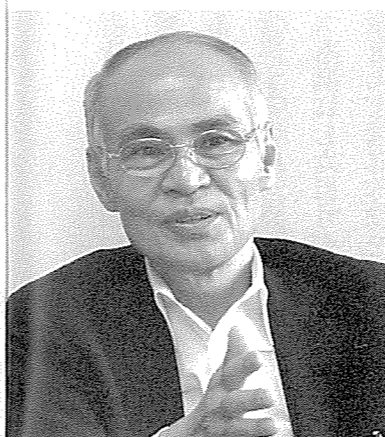
苗を購入しています。

また、ジェイエイファームみやぎぎ中央では、新規就農者研修事業も行っています。平成十八年のスタートで、現在までの受講生は

次世代へ向けての積極的な農協投資

藤原 ただし老朽化したハウスも多く、空きハウスを見つけにくいのも事実です。

そこで昨年度、農協独自で一四〇アール(二〇アール×七棟)の入植団地を宮崎市の田野地区と高岡地区に整備しました。来年度までの事業ですが、本格的就農までの三年間をリース方式のハウスで技術を磨き、それから独立してもらうという計画です。リース料は一〇アール当たり約三五万円です。



いしだまさあき

昭和23年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、農業政策、協同組合論。三重大学教授を経て、本年4月より龍谷大学農学部教授。京都大学農学研究科(農林水産統計学)研究員を併任。近著に『農協は地域に何ができるか』(農文協)、『JAの歴史と私たちの役割』(家光協会)など。

八三人(うち県外出身者二人)。卒業生は七一人ですが、そのうちの六六人がすでに就農しています。就農に当たっては、空きハウスのあつ旋を農協が行っています。
石田 畜産(和牛)でも同じような取り組みを行っていますよね。
藤原 ええ。畜産部門では、キャトルステーション(子牛共同育成施設)、繁殖センター、畜産団地(入植施設)の造成という三つの取り組みを行っています。

農協の使命は「家族農業の持続性を高めること」

JA宮崎中央の本店は、JR宮崎駅に近い交通至便のところにある。しかし、その建物(旧・宮崎市農協本店)は小さく、かつ古い。組合長室に至っては、これまでわたしが訪れた組合長室のなかで最も小さな部屋だった。しかもふつうは本店内にあるはずの経済部も、そこから車で10分程度離れた(株)宮崎経済連直販のワンフロアを借りたところにあった。われわれを案内してくれた教育文化活動担当者もそこにおられた。

これに対し、園芸・畜産部門の事業所、農畜産物直売所は、施設自体が近代的で、職員もテキパキと仕事をこなしていた。われわれの質問にも丁寧に答えてくれた。

これらはすべて、藤原組合長が言うように、農協の使命が「家族農業の持続性を高めること」にあるからだと悟った。家族農業支援の仕組みは際立っている。(石田正昭)

齢の子牛をセリ出荷時まで一日五五〇円で預かります。平成十四年度から開始しており、現在の収容頭数は四五〇頭です。

繁殖センターは二〇〇頭規模で今年度から稼働します。ここでは農協自らが血統のよい子牛(去勢牛)を生産し、それをセリに回して家畜市場の維持・強化を図る一方、雌子牛は妊娠牛までに仕上げ、それを生産者に供給して優良系統群の造成に役立ててもらおう計画です。口蹄疫の発生で窮地に陥った宮崎の優良系統群ですが、それを

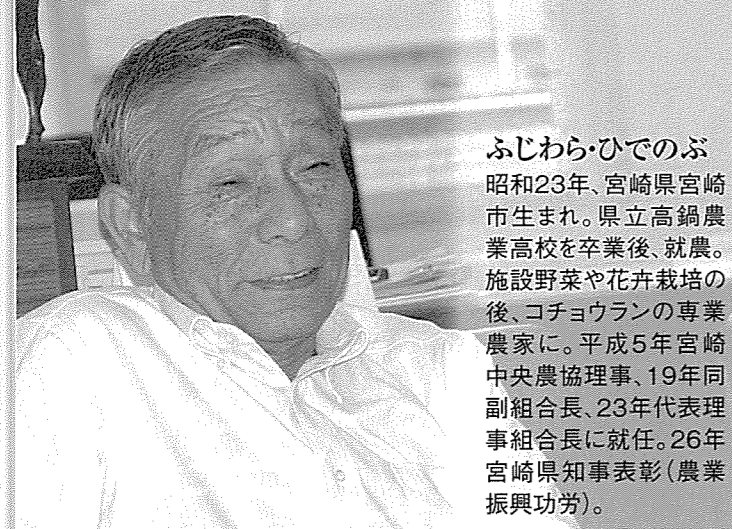
再構築するための重要な取り組みです。

畜産団地(入植施設)の造成は肉用牛の新規農家や中核農家を育てるための取り組みです。平成十五年度から国富町と宮崎市の佐土原地区、高岡地区で合計一三人の生産者に活用してもらっています。

採用していることです。

一方、共通しているのは農協自らが生産に乗り出していることです。野菜苗にしても子牛にしても

ぶじわらひでのぶ
昭和23年、宮崎県宮崎市生まれ。県立高鍋農業高校を卒業後、就農。施設野菜や花卉栽培の専門家。平成5年、宮崎中央農協理事、19年同組合長に就任。26年宮崎県知事表彰(農業振興功労)。



入植者は繁殖で五〇頭規模、肥育で一五〇頭規模を実現しています。
石田 なるほど。体系的な取り組みであることがよくわかります。
藤原 園芸ハウスとの違いは、リース方式ではなく、分譲方式を

採用していることです。

一方、共通しているのは農協自らが生産に乗り出していることです。野菜苗にしても子牛にしても

藤原 そうです。畜産は耕畜連携を進めるなかで、水田を守るといふ重要な役割を担っています。主食用米の需要が減少するなかで、堆肥とホルクロップサイレージで循環型農業を作っています。農地はわれわれが何百年にもわたって積み上げた国家的な財産ですから、その荒れる姿を見るのはいちばんつらいことです。

石田 貴農協は畜産系、園芸系を合わせると、補助事業とはいえない十億円もの投資をしています。これは大変なことですよ。

藤原 年間の償却額も大きく、経営的には大変厳しい状況です。しかし、地域の生産基盤を守ることと担い手を育てることを第一に考えながら、やっています。「家族農業の持続性を高めること」、「これが農協の使命だと思っています」。

農協は部会の集合体であって、この組織さえしっかりしていれば、農協は簡単には崩れません。



組合長

【第5回ゲスト】

藤原榮伸氏 下

宮崎県 JA宮崎中央代表理事組合長

【インタビューとまとめ】

石田正昭

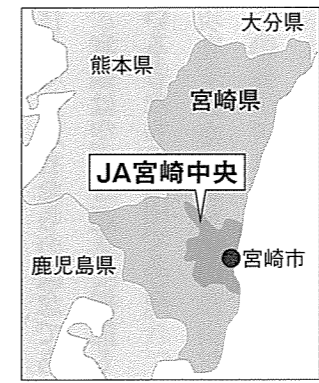
龍谷大学農学部教授

職員たちに「のさん、よだき、たまろか」を排して、「勇氣・創造・ロマン」を求める藤原組合長。事なかれ主義に陥りやすい職場風土の改善は、農協・農協系統組織にとって喫緊の課題とも言える。「農協改革は意識改革から」の取り組みを具体的に語っていただいた。

勇氣・創造・ロマン あふれるJAづくり

地域インフラとしての農協

石田 ちよつと視点を変えると、生産部会のリーダーがJA理事としてきちつと育つてきてもらわないと困りますよね。
藤原 その点について、わたしはそんなに心配していません。有能



な人材が多数出てきています。学経や女性理事を除くと、二二名の地区理事がおりますが、そのほとんどが生産部会の役員や青年部長の経験者たちです。そういう方は、地区推薦の形をとりながらも、

ています。女性部や青年部は生産部会とは違い、利益につながっていないわけではありせんからね。魅力ある女性部活動とするには、自分のくらしをよくする、地域のくらしをよくするというなかで、農協事業を取り込むような部会の姿勢、例えばよりよいサービスを受けるとか、よりよい商品を開発するとかの要素が入っていることが重要だと思います。

石田 しばしば楽しくやることだけが目的化し、じゃ、わたしたちいったい何をめざすのかという部分が弱いような感じもします。
藤原 このあいだの総代会のとき

石田 自動車を奪われたら、農村
も、「田舎に引つ込むと店がない。医者がいない。農協も合併して遠くなった。年をとって自動車を取り上げられた。自転車か、歩きしかない。そんなお年寄りたちが増えているので、自分たちの農協だという姿を見せてくれ」という意見が出ました。みんなから拍手が出ましたよ。
石田 そうでしょう。
藤原 地域農協にとって農業振興は大事だけれど、それだけではない。くらしの問題やお年寄りの問題にしっかりと向き合わなければいけないなど改めて感じました。

の人は動けない。買い物をはじめ、ありとあらゆる動きがとれなくなってしまう。
藤原 総代会のときにわたしも話

「くらし委員会」の立ち上げ
石田 思いつきで恐縮ですが、女性部と職員とが一緒になって、見守り隊をつくってはどうかでしょうか。各集落に「あの家、今どうなっているだろう」という気持ちで周りの家々を見守る人たちを配置し、日常生活に必要なサービスを提供していく。例えばコンビニがやっている買い物代行サービスが考えられます。ただコンビニは

らとか、法律改正の審議がなされていますが、そんな規定は必要ありません。農協理事は、基本的に生産部会の代表でなければなりません。と同時に、地域の代表でもないといえます。この両方の役割をきちつと果たせる人が選ばれてきてほしいと思っています。
女性は別枠を設けないと理事になるのはむずかしいので、枠は必要ですね。青年部は参与として理事会に出席しています。



JA宮崎中央
(宮崎中央農業協同組合)

組織の概況(平成27年1月末日)
組合員数.....34,310人
(正組合員10,350人
准組合員23,960人)
役員数.....34人(うち常勤5人)
職員数.....1,205人(うち正職員658人)

地域と農業の概況
宮崎平野を取り巻く旧1市5町の6つのJAが合併して発足。冬でも温暖な気候に恵まれ、販売額の5割以上が野菜(キュウリ、ピーマン、トマトなど)を占め、マンゴーなどの果樹、花卉、畜産(全国和牛能力共進会連続日本一の宮崎牛)なども盛ん。プロ野球チームのキャンプ地を管内に抱え、選手に農産物を食べてもらうなどのPR活動を展開している。

JAのデータ(平成27年1月末日)
設立 平成9年2月
本店所在地 〒880-0813
宮崎県宮崎市丸島町1-17
出資金.....60億円
販売品販売額.....238億円
購買品供給額.....151億円
貯金残高.....1,738億円
貸出残高.....541億円
長期共済保有高.....7,574億円

しましたが、組合員から「農協でよかった、農協があつてよかった」と言われるような事業、職員職場をめざしたいと思っています。
店から半径五〇〇メートルまでしか受け付けませんから、距離も、サービスの種類も制限しなければ、農協らしいということになります。
藤原 そうですね。そういう助け合い、支え合いの手を差し伸べるような取り組みが重要だと思います。今年度からの三か年計画では、支店ごとに「くらし委員会」を立ち上げ、助け合い、支え合いの取り組みをマニュアル化することにしました。マニュアル化というよりも、まずはみんなができることから始める、ということが大切で、それを実行するなかで、おのずと次のステップが見えてくるのかなと思っています。
この地域にはそれくらい地域密着型の取り組みが必要です。営



農振興だけに目を向けていては「おらが農協」とは言えません。石田 営農振興だけで終わるのではなく、最終的には組合員・利用者のくらしなり、命をどう守るのか、これに結びつけていくことが大切です。営農振興は目的ではなく手段ですからね。

藤原 同感です。先日開かれた行政と各種団体との懇談会で、わたしからは「仕事のためのくらしなのか、くらしのための仕事なのか、そのあたりの選択を自分たちは見誤ってきたのではないか」という話をさせてもらいました。

地域の創生という点から見ても、地域を守る以上は、くらしを原点に仕事を組み立てることが重要です。みんながその地域に定着できるようにになってこそ、地域の創生も可能になりますからね。

石田 女性は、もともとからその地域に人的つながりがあつて、ネットワーク網が発達しています。しかし、男性はそうはいかない。



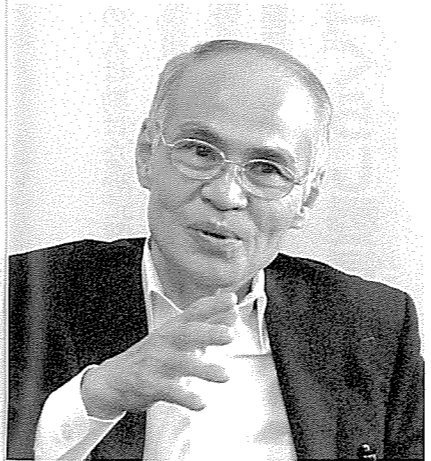
ふじわら・ひでのぶ
昭和23年、宮崎県宮崎市生まれ。県立高鍋農業高校を卒業後、就農。施設野菜や花卉栽培の後、コショウランの専業農家に。平成5年宮崎中央農協理事、19年同組合長、23年代表理事組合長に就任。26年宮崎県知事表彰(農業振興功労)。

念を掲げています。ただ、このまごころ日本というものは、事業や数字で表せるようなものではありません。相手を思いやる気持ち、この気持ちで組合員たちに伝わることによって、「農協があつてよかった」と言ってもらえるような存在になりたいのです。わたしは職員たちに「のさん、よだき、たまろか」を払拭して、「勇氣、創造、ロマン」を持ってと言っています。農協を生涯の職場として選んだ以上は、「勇氣、創

退職してから、さあどうしようかということになります。横のネットワークがないので、退職後は一人ぼっちになってしまいます。藤原 その通りです。この地域にはそういう現実があるので、年金受給者たちを集めて、支店ごとに組織化を進めているところなんです。

石田 すこいですね。多くの農協では、旅行とか、グラウンドゴルフとかをやっていますが、それだけではなく、「健康」「生きがい」「地域づくり」の取り組みを広げることが必要です。藤原 すでにいろんな活動が生まれています。料理教室や書道教室などのサークル活動が、年金友の会の中にできています。とくに国富支店が活発で、年を

「全員経営」をめざして
全員経営とは、組織のめざすところと個人のめざすところが一致しているような組織のことをいう。この両者の一致が一部の個人に留まっているかぎり、全員経営とは呼ばない。すべての個人の間で一致しているような場合に全員経営と呼ぶ。農協職員には、単なる「給料取り」ではなく、理想社会の実現をめざす「運動者」の姿が求められる。ただし、それは役員が強要するものであつてはならず、また自然発生的に生まれてくるものでもない。主体的な学習のなかで「腹に収まる」ようにしていくことが重要だ。思うに農協の場合、その主体的な学習の場とは、組合員と直に接する支店ではないか。その支店で「声を出し、声を聞き、声を活かす」ような日常の取り組みが求められる。支店の職場環境こそ、良くも悪くも未来の農協を決めることになるだろう。(石田正昭)



いしだ・まさあき
昭和23年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、農業政策学、協同組合論。三重大学教授を経て、本年4月より龍谷大学農学部教授。京都大学農学研究科(農林水産統計デジタルアーカイブ講座)研究員を併任。近著『農協は地域に何ができるか』(農文協)、『JAの歴史と私たちの役割』(家の光協会)など。

とつても「楽しみがあるわな」「生きがいがあるわな」といった賛同の声をいただいております。この種のサークル活動では、先

「勇氣・創造・ロマン」を持って

藤原 農協は協同の組織なので、現場を基本に据えて事業を展開していきたい。組合員と役員との気持ちが一一致したなかで行動していきたい。そう思っています。農協はお金のやり取りだけで動くような組織ではありません。事業改革とか組織改革とか言われていますが、まずは意識改革が必要です。この点について宮崎に

必要です。この点について宮崎には宮崎の風土というものがあつて、「のさん、よだき、たまろか」の

生役を女性部の方々が務めています。ですが、これからは女性職員も女性部員となり、組織を盛り上げていってほしいと思います。

石田 のさん、よだき、たまろか？ それつて、どういう意味ですか？

藤原 宮崎の方言ですが、非常に後ろ向きの言葉です。標準語ではうまく表現できませんが、消極的な姿勢を表しています。この意識を払拭しないことには職場は活性化しません。

ということ、わが農協では「まごころ日本」という基本理念

していますね。と同時に、こちらでは集落座談会も秀逸です。藤原 集落座談会は全一六六会場で総代会前に開きます。ちょうどミニ総会のような形になりますが、出席率は六割にのぼります。組合員のみなさんの関心が非常に高い。常勤役員も手分けして出席していますが、基本は地元役員が対応しています。出された意見は、回答できるものはその場で、そうでないものは全部持ち帰って集約し、それを広報誌『めぐみ』に掲載しています。

造、ロマン」を持って働いてもらいたい。農協職員であることに誇りを持ち、これを天職だと思つて働いてもらいたいです。石田 勇氣と創造とロマン、すばらしい言葉ですね。藤原 自分は何のために、何をするために、農協に入ったのか？このことを自問自答することが重要です。組合の利益ではなく、組合員の利益になることを。このことを第一に考えて行動する。そういう意識を持った職員になつてほしいと思つています。

それには農協運動の理念とは何か、このことをしっかりと意識できらるような職員教育をしなければなりません。とくに管理職の意識改革が重要で、わがJAでは「拡大常勤役員会」をつくり、これを実践しています。常勤理事、室長、部長、統括支店長など総勢三〇数名が集まり、意思統一と意思伝達の機関となっています。毎月一回の開催ですが、そこから号令すれば、現場まで届く仕組みになつています。

石田 経営トップと現場とが直結

『めぐみ』では二回に分けて掲載しますが、それでもうまく伝わらない部分が多いので、今年度からは統括支店ごとに「支店代表者会議」を立ち上げました。これには常勤理事と全部の室・部長が出席します。六統括支店でそれぞれ年二回開催する予定です。この会合では課題解決というよりも、課題発見をめざすこととしています。(終・取材 平成二十七年六月十日)